



# クラスタ構成のバックアップとリストア (クラスタ管理者のみ)

## ONTAP 9

NetApp  
February 12, 2026

# 目次

クラスタ構成のバックアップとリストア（クラスタ管理者のみ） .....	1
ONTAP構成バックアップファイルについて学ぶ .....	1
ONTAPクラスタおよびノード構成バックアップ ファイルのバックアップのスケジュール設定について学習します。 .....	1
構成バックアップ スケジュールを管理するための ONTAP コマンド .....	2
ノード構成バックアップ ファイルを管理するためのONTAPコマンド .....	2
ノードを復元するONTAP ノード構成バックアップファイルを特定します .....	4
ONTAPノード構成バックアップファイルを使用してノードを復元する .....	5
クラスタを復元するONTAPクラスタ構成バックアップファイルを探します .....	6
ONTAPクラスタ構成バックアップ ファイルを使用してクラスタを復元する .....	7
ノードをONTAPクラスタと同期してクラスタ全体のクォーラムを確保する .....	10

# クラスタ構成のバックアップとリストア（クラスタ管理者のみ）

## ONTAP構成バックアップファイルについて学ぶ

構成バックアップ ファイルは、クラスタとクラスタ内のノードが正しく動作するために必要な、設定可能なすべてのオプションに関する情報が含まれているアーカイブ ファイル（.7z）です。

このファイルには、各ノードのローカル設定に加えて、クラスタ全体にレプリケートされる設定が格納されます。構成バックアップ ファイルは、クラスタ設定のバックアップとリストアに使用します。

構成バックアップ ファイルには、次の2つの種類があります。

- ノード構成バックアップファイル

クラスタ内の正常な各ノードには、ノード構成バックアップファイルが含まれており、このファイルには、ノードがクラスタ内で正常に動作するために必要なすべての構成情報とメタデータが含まれています。

- クラスタ構成バックアップファイル

クラスタ構成バックアップ ファイルには、クラスタ内のすべてのノード構成バックアップ ファイルのアーカイブと、レプリケートされたクラスタ構成情報（RDB[レプリケートされたデータベース]ファイル）が含まれています。クラスタ構成バックアップ ファイルを使用すると、クラスタ全体またはクラスタ内のノードの設定をリストアできます。クラスタ構成バックアップ スケジュールを使用すると、これらのファイルが自動的に作成され、クラスタ内の複数のノードに格納されます。



設定バックアップファイルには設定情報のみが含まれます。ユーザデータは含まれません。ユーザデータの復元については、"[データ保護](#)"を参照してください。

## ONTAPクラスタおよびノード構成バックアップ ファイルのバックアップのスケジュール設定について学習します。

3通りのスケジュールで、クラスタおよびノードの構成バックアップ ファイルが自動的に作成され、クラスタのノード間で複製します。

構成バックアップ ファイルは、次のスケジュールに従って自動的に作成されます。

- 8時間ごと
- 日次
- 週次

それぞれのスケジュールで、ノード構成バックアップ ファイルが、クラスタの健全な各ノードに作成されます。これらの構成バックアップ ファイルはすべて、複製されたクラスタ構成とともに単一のクラスタ構成バックアップ ファイルに収集され、クラスタ内の1つ以上のノードに保存されます。

# 構成バックアップ スケジュールを管理するための ONTAP コマンド

``system configuration backup settings`` コマンドを使用して、構成バックアップ スケジュールを管理できます。

これらのコマンドはadvanced権限レベルで使用できます。

状況	使用するコマンド
<p>構成バックアップ スケジュールの次のような設定を変更する</p> <ul style="list-style-type: none"><li>クラスタ内のデフォルトの場所に加えて、構成バックアップ ファイルがアップロードされるリモート URL (HTTP、HTTPS、FTP、または FTPS) を指定します。</li><li>リモートURLへのログインに使用するユーザ名を指定する</li><li>それぞれの構成バックアップ スケジュールについて維持するバックアップ数を設定する</li></ul>	<p><code>system configuration backup settings modify</code></p> <p>リモート URL で HTTPS を使用する場合は、<code>`-validate-certification`</code> オプションを使用してデジタル証明書の検証を有効または無効にしてください。証明書の検証はデフォルトで無効になっています。</p> <p> 構成バックアップ ファイルのアップロード先のWebサーバで、HTTPの場合はPUT処理、HTTPSの場合はPOST処理が有効になっている必要があります。詳細については、Webサーバのマニュアルを参照してください。</p>
<p>リモートURLへのログインに使用するパスワードを設定する</p>	<p><code>system configuration backup settings set-password</code></p>
<p>構成バックアップ スケジュールの設定を表示する</p>	<p><code>system configuration backup settings show</code></p> <p> <code>`-instance`</code> パラメータを設定して、ユーザー名と各スケジュールで保持するバックアップの数を表示します。</p>

# ノード構成バックアップ ファイルを管理するための ONTAP コマンド

``system configuration backup`` コマンドを使用して、クラスタおよびノード構成のバックアップ ファイルを管理します。

これらのコマンドはadvanced権限レベルで使用できます。

状況	使用するコマンド
新しいノードまたはクラスタの構成バックアップファイルを作成する	system configuration backup create
クラスタ内のノードから別のノードに構成バックアップファイルをコピーする	system configuration backup copy
クラスタ内のノードからリモート URL (FTP、HTTP、HTTPS、または FTPS) に構成バックアップファイルをアップロードします	<p>system configuration backup upload</p> <p>リモート URL で HTTPS を使用する場合は、`-validate-certification` オプションを使用してデジタル証明書の検証を有効または無効にしてください。証明書の検証はデフォルトで無効になっています。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> 設定バックアップファイルをアップロードするWebサーバでは、HTTPの場合はPUT操作が有効、HTTPSの場合はPOST操作が有効になっている必要があります。一部のWebサーバでは、追加のモジュールのインストールが必要になる場合があります。詳細については、Webサーバのドキュメントを参照してください。サポートされるURL形式はONTAPリリースによって異なります。システム設定コマンドの詳細については、"<a href="#">ONTAPコマンド リファレンス</a>"を参照してください。</p> </div>
リモートのURLからクラスタ内のノードに構成バックアップファイルをダウンロードし、指定されている場合はデジタル証明書を検証する	<p>system configuration backup download</p> <p>リモート URL で HTTPS を使用する場合は、`-validate-certification` オプションを使用してデジタル証明書の検証を有効または無効にしてください。証明書の検証はデフォルトで無効になっています。</p>
クラスタ内のノードで構成バックアップファイルの名前を変更する	system configuration backup rename
クラスタ内の1つ以上のノードについてノードおよびクラスタ構成バックアップファイルを表示する	system configuration backup show

状況	使用するコマンド
ノード上の構成バックアップ ファイルを削除する	<pre>system configuration backup delete</pre> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  <p>このコマンドを実行すると、指定したノードにある構成バックアップ ファイルだけが削除されます。その構成バックアップ ファイルがクラスタ内の他のノードにあっても、それらはノードに残ります。</p> </div>

#### 関連情報

- ["システム構成のバックアップ"](#)

## ノードを復元するONTAP ノード構成バックアップファイルを特定します

ノード構成を回復するには、リモート URL またはクラスタ内のノードにある構成バックアップファイルを使用します。

#### タスク概要

ノード構成を復元するには、クラスタまたはノード構成のバックアップファイルのいずれかを使用できます。

#### 手順

1. 構成を復元する必要があるノードで構成バックアップファイルを利用できるようにします。

構成バックアップファイルが次の場所にある場合...	操作
リモートURL	<pre>`system configuration backup download`</pre> コマンドを高度な権限レベルで使用して、回復ノードにダウンロードします。
クラスタのノード上	<ol style="list-style-type: none"> <li>a. 回復中のノードの構成を含むクラスタ内で使用可能な構成バックアップ ファイルのリストを表示するには、上級権限レベルで <code>`system configuration backup show`</code> コマンドを使用します。</li> <li>b. 識別した構成バックアップ ファイルが回復ノードに存在しない場合は、<code>`system configuration backup copy`</code> コマンドを使用して回復ノードにコピーします。</li> </ol>

以前にクラスタを再作成している場合は、クラスタの再作成後に作成された構成バックアップファイルを選択する必要があります。クラスタの再作成前に作成された構成バックアップファイルを使用する必要があります。

ある場合は、ノードを復旧した後、クラスタを再度再作成する必要があります。

## 関連情報

- ["system configuration backup copy"](#)

# ONTAPノード構成バックアップファイルを使用してノードを復元する

ノード構成をリストアするには、特定し、リカバリ ノードに利用可能にした構成バックアップ ファイルを使用します。

## タスク概要

このタスクは、障害によりノードのローカル構成ファイルが失われた場合に、リカバリ目的でのみ実行します。

## 手順

1. advanced権限レベルに切り替えます。

```
set -privilege advanced
```

2. ノードが正常な場合は、別のノードの高度な権限レベルで、`-node`および`-eligibility`パラメータを指定した`cluster modify`コマンドを使用して、そのノードを不適格としてマークし、クラスタから分離します。

ノードが健全でない場合は、この手順を省略する必要があります。

この例では、node2を変更してクラスタへの参加資格を無効にし、構成をリストアできるようにします。

```
cluster1::*> cluster modify -node node2 -eligibility false
```

`cluster modify`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/cluster-modify.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/cluster-modify.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

3. 上級権限レベルで`system configuration recovery node restore`コマンドを使用して、構成バックアップファイルからノードの構成を復元します。

ノードが名前を含む ID を失った場合は、`-nodename-in-backup`パラメータを使用して構成バックアップファイルでノード名を指定する必要があります。

この例では、ノードに保存されている構成バックアップ ファイルの1つを使用してノードの構成をリストアします。

```
cluster1::*> system configuration recovery node restore -backup
cluster1.8hour.2011-02-22.18_15_00.7z
```

```
Warning: This command overwrites local configuration files with
files contained in the specified backup file. Use this
command only to recover from a disaster that resulted
in the loss of the local configuration files.
The node will reboot after restoring the local configuration.
Do you want to continue? {y|n}: y
```

構成がリストアされ、ノードがリブートします。

4. ノードを不適格としてマークした場合は、`system configuration recovery cluster sync` コマンドを使用してノードを適格としてマークし、クラスターと同期します。
5. SAN 環境で動作している場合は、`system node reboot` コマンドを使用してノードを再起動し、SAN クォーラムを再確立します。

#### 終了後の操作

以前にクラスタを作成し直したことがある場合、またクラスタの再作成の前に作成された構成バックアップファイルを使用してノードの構成をリストアする場合は、再度クラスタを作成し直す必要があります。

## クラスタを復元するONTAPクラスタ構成バックアップファイルを探します

クラスタ内のノード、またはクラスタ構成バックアップファイルのいずれかの構成を使用してクラスタをリカバリできます。

#### 手順

1. クラスタのリカバリに使用する構成の種類を選択します。

- クラスタ内のノード

クラスタが複数のノードで構成されている場合で、クラスタが適切な構成であった時点で作成されたクラスタ構成がいずれかのノードに存在していれば、そのノードに格納された構成を使用してクラスタをリカバリできます。

ほとんどの場合、最新のトランザクションIDを持つレプリケーションリングを含むノードが、クラスター構成の復元に最適なノードです。`cluster ring show` コマンドを advanced 権限レベルで使用すると、クラスター内の各ノードで利用可能なレプリケーションリングのリストを表示できます。

- クラスタ構成バックアップ ファイル

適切なクラスタ構成を持つノードが特定できない場合、またはクラスタがシングル ノードで構成されている場合は、クラスタ構成バックアップ ファイルを使用してクラスタをリカバリできます。

構成バックアップファイルからクラスタをリカバリする場合、バックアップの作成以降に行われた構成変更はすべて失われます。リカバリ後、構成バックアップファイルと現在の構成の不一致を解決する必要があります。

あります。トラブルシューティングのガイダンスについては、"[NetAppナレッジベース：ONTAP構成バックアップ解決ガイド](#)"を参照してください。

- クラスタ構成バックアップ ファイルを使用する場合は、クラスタのリカバリに使用するノードでそのファイルを利用できるようにします。

構成バックアップファイルが次の場所にある場合...	操作
リモートURL	<pre>`system configuration backup download`</pre> コマンドを高度な権限レベルで使用して、回復ノードにダウンロードします。
クラスタのノード上	<ol style="list-style-type: none"><li>クラスタが目的の構成であったときに作成されたクラスタ構成バックアップファイルを見つけるには、上級権限レベルで <code>`system configuration backup show`</code> コマンドを使用します。</li><li>クラスタのリカバリに使用する予定のノードにクラスタ構成バックアップファイルがない場合は、<code>`system configuration backup copy`</code> コマンドを使用してリカバリノードにコピーします。</li></ol>

#### 関連情報

- ["cluster ring show"](#)
- ["system configuration backup copy"](#)

## ONTAPクラスタ構成バックアップ ファイルを使用してクラスタを復元する

クラスタ障害後に既存の構成からクラスタ構成をリストアするには、クラスタ構成を選択してリカバリするノードで利用できるようにし、次にその構成を使用してクラスタを再作成し、残りのノードを新しいクラスタに再追加します。

#### タスク概要

このタスクは、クラスタ構成の損失となる障害からリカバリする目的でのみ実行してください。

構成バックアップ ファイルからクラスタを再作成する場合は、テクニカル サポートに問い合わせ、構成バックアップ ファイルと現在のクラスタ構成との矛盾をすべて解決しておく必要があります。



構成バックアップファイルからクラスタをリカバリする場合、バックアップの作成以降に行われた構成変更はすべて失われます。リカバリ後、構成バックアップファイルと現在の構成の不一致を解決する必要があります。トラブルシューティングのガイダンスについては、"[NetAppナレッジベース：ONTAP構成バックアップ解決ガイド](#)"を参照してください。

## 手順

1. 各HAペアのストレージ フェイルオーバーを無効にします。

```
storage failover modify -node node_name -enabled false
```

ストレージ フェイルオーバーを無効にするのは、各HAペアに対して1度だけです。一方のノードでストレージ フェイルオーバーを無効にすると、そのノードのパートナーでもストレージ フェイルオーバーが無効になります。

2. リカバリするノード以外の各ノードを停止します。

```
system node halt -node node_name -reason "text"
```

```
cluster1::*> system node halt -node node0 -reason "recovering cluster"
Warning: Are you sure you want to halt the node? {y|n}: y
```

3. 権限レベルをadvancedに設定します。

```
set -privilege advanced
```

4. 回復ノードで、**system configuration recovery cluster recreate** コマンドを使用してクラスターを再作成します。

この例では、リカバリ ノードに保存された構成情報を使用してクラスターを再作成します。

```
cluster1::*> configuration recovery cluster recreate -from node
Warning: This command will destroy your existing cluster. It will
rebuild a new single-node cluster consisting of this node
and its current configuration. This feature should only be
used to recover from a disaster. Do not perform any other
recovery operations while this operation is in progress.
Do you want to continue? {y|n}: y
```

新しいクラスターはリカバリ ノードに作成されます。

5. 構成バックアップ ファイルからクラスターを再作成する場合は、クラスターのリカバリがまだ進行中であることを確認します。

```
system configuration recovery cluster show
```

健全なノードからクラスターを再作成する場合、クラスターのリカバリの状態を確認する必要はありません。

```
cluster1::~*> system configuration recovery cluster show
Recovery Status: in-progress
Is Recovery Status Persisted: false
```

6. 再作成したクラスタに再追加が必要な各ノードをブートします。

ノードは一度に1つずつリブートする必要があります。

7. 再作成したクラスタに再追加が必要な各ノードで、以下を実行します。

- a. 再作成したクラスタ上の健全なノードから、ターゲット ノードを再追加します。

```
system configuration recovery cluster rejoin -node node_name
```

この例では、再作成されたクラスタに「node2」ターゲットノードを再参加させます：

```
cluster1::~*> system configuration recovery cluster rejoin -node node2

Warning: This command will rejoin node "node2" into the local
cluster, potentially overwriting critical cluster
configuration files. This command should only be used
to recover from a disaster. Do not perform any other
recovery operations while this operation is in progress.
This command will cause node "node2" to reboot.
Do you want to continue? {y|n}: y
```

ターゲット ノードがリブートし、クラスタに追加されます。

- b. ターゲット ノードが健全であり、クラスタ内の残りのノードとクォーラムを形成していることを確認します。

```
cluster show -eligibility true
```

別のノードを再追加する前に、ターゲット ノードを再作成したクラスタに再追加する必要があります。

```
cluster1::~*> cluster show -eligibility true
Node           Health  Eligibility  Epsilon
-----
node0          true    true         false
node1          true    true         false
2 entries were displayed.
```

8. 構成バックアップ ファイルからクラスタを再作成した場合は、リカバリ ステータスを「complete」に設定します。

```
system configuration recovery cluster modify -recovery-status complete
```

9. admin権限レベルに戻ります。

```
set -privilege admin
```

10. クラスターが2つのノードのみで構成されている場合は、`cluster ha modify`コマンドを使用してクラスター HA を再度有効にします。
11. `storage failover modify`コマンドを使用して、各HAペアのストレージフェイルオーバーを再度有効にします。

#### 終了後の操作

クラスターにSnapMirrorピア関係がある場合は、それらの関係も再作成する必要があります。詳細については、"[データ保護](#)"を参照してください。

#### 関連情報

- "[ONTAPコマンド リファレンス](#)"
- "[storage failover modify](#)"

## ノードをONTAPクラスタと同期してクラスタ全体のクォーラムを確保する

クラスタ全体のクォーラムが存在するものの、いくつかのノードがクラスタと同期していない場合は、ノードを同期してレプリケートされたデータベース (RDB) をノード上にリストアし、クォーラムに参加させる必要があります。

#### 手順

1. 正常なノードから、高度な権限レベルで `system configuration recovery cluster sync` コマンドを使用して、クラスター構成と同期していないノードを同期します。

この例では、ノード (*node2*) をクラスターの残りの部分と同期します：

```
cluster1::*> system configuration recovery cluster sync -node node2
```

```
Warning: This command will synchronize node "node2" with the cluster configuration, potentially overwriting critical cluster configuration files on the node. This feature should only be used to recover from a disaster. Do not perform any other recovery operations while this operation is in progress. This command will cause all the cluster applications on node "node2" to restart, interrupting administrative CLI and Web interface on that node.
```

```
Do you want to continue? {y|n}: y
```

```
All cluster applications on node "node2" will be restarted. Verify that the cluster applications go online.
```

## 結果

該当するノードにRDBがレプリケートされ、クラスタに参加できるようになります。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。